東北コットンプロジェクト での種まきボランティア

2012年5月12日(土) 2度目となる宮城県名取市、仙台市での綿花の種まきのレポートである。昨年 より大幅に栽培面積を増加させ、あわせて 5ha を超える規模となる。

名取市の(有)耕谷アグリサービス

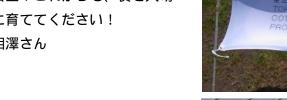
ここでは、ポット栽培苗の定植である。新疆綿の種を約1か月育苗 し、それを定植した。土壌表面には固化したごろごろ石のような土が あり、それを掘ると10センチくらいで粘りのある粘土質となる。ポ ットから苗を抜き、根回りをよくするために川砂(バケツで配布、運 搬が大変だったろう)で盛り、風で倒れないように固化した土で固め、 再度砂で根を巻いた。

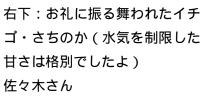
定植当日は風が強く、根が活着するまで風に負けないでほしい。ま た、風が強ければ、今後は支持も必要だろうか。また、直根がしっかりと粘土層をうちぬけるか、やや 懸念がある。



2 反程度の定植作業、約30名で2時間程度、3分の2が終了した。 昨年よりも、農家の方も慣れて、植え方指導など手際がよかった。

右上:これからも、食を大切 に育ててください! 相澤さん









午前の名取から、タクシーで移動、閖上、荒浜へと進むと地盤沈下した田が沼のように広がる。水が ぬけない、この道も6m程度嵩上げ工事が国費、県・市費で予定されているようである。復興計画のなか で、この地域は農業特区として6次産業化拠点として復興を目指す(5月14日各社報道)。

仙台市荒浜地区

名取と違い、完全に土質は砂。荒浜海岸より1キロ未満で、津波で運ばれた海砂が堆積している。 当日は風が強く、砂埃がまっていた。山からの風が強く、マルチシートを固定するのに苦労する。ま た、マルチシートが薄く、破断しやすく、破れ穴に土をかけて補修した。

アップランドの種を 60 cmおきに植えた。20m の畝が 20 程度 はあったように思う。砂は表土が乾燥し、さらさらだった。今後 は、水まきなど極力控えて自然栽培すると農家は話していた。

岸和田商工会議所の綿スフ部会が種まきの手伝いを行う、人数 も約20名いたため、手際もよく、畝あげされた畑にマルチシー トを張り、マルチの定植場所の穴あけ、種まきと効率的に行えた。 今後の生育に期待したい。







左:近藤氏 右:辰巳氏





上:木村氏

(現地レポート・作成:松下)